



# しらさぎ

求めて学ぶ 考えて行う 自ら鍛える

目黒区立第八中学校  
学校だより NO. 2  
(通巻211号)  
令和2年(2020)  
5月11日(月)

## 『心と心は離れずに』

校長 飯野 博史

5月連休明けの学校再開を心待ちにしていましたが、緊急事態宣言延長により引き続き臨時休業期間に入りました。自宅での生活が長くなり、ストレスを感じている人もたくさんいることと思います。しかし、ここは健康・安全を最優先に、じっと我慢するしかありません。一日も早く平常の生活に戻れるようにそれぞれの責任を果たしていきましょう。

ゴールデンウィーク中、公園一面に咲いた数万本のチューリップが一斉に刈り取られるというニュースがありました。あるフラワーパークでは名物の藤の花が全て切り落とされました。沖縄のゆり園でも同じことがありました。きれいな花が咲いていると人が集まり「密」になり、感染が拡大する心配がある…という理由からでした。「丹精を込めて育てたゆりを自分の手で刈り取るのはつらい。早くコロナが終息して、みんなが笑顔で公園に集まってくれることを願っています」公園の人の悲しそうなコメントが心に染みました。

新型コロナウイルスの恐ろしさは次々と感染を広げ、私たちの体を蝕むということです。それだけでなく、感染が拡大するにつれデマや風評が広がり、日常生活に不安や不信を増大させていきます。「自分さえ良ければ」といった行動も現れます。

さらに、コロナは感染した人やその家族に対する差別、最前線で医療に従事する人やその家族に対する偏見、長距離トラック運転手やスーパーの店員など私たちの生活を支えてくれている人たちへの心ない発言など、偏見や差別を引き起こし、心と心を引き裂こうとしていくようです。コロナの影響で、社会の「分断」が進んでいくようです。

そんな中、ある区で清掃員への感謝の手紙が話題になっています。回収するゴミ袋に「家庭のゴミを持っていくくださる皆様へ コロナが流行している中、毎月、週2回もゴミを持っていくくださりありがとうございます。コロナに負けないように一緒に頑張りましょう。お体には十分お気を付けてください」と書かれていたそうです。

家庭ゴミにはウイルスが付着している危険性がありますが、私たちの暮らしを支えるため清掃員の皆さんは普段どおりゴミを回収しています。日常の生活であれば当たり前のことかもしれませんが、この時期とてもありがたいことです。感謝の気持ちを手紙にしたためた方の温かい言葉にも頭が下がります。

医療従事者の奮闘を称え、一斉に拍手を送る取組なども始まりました。

3つの「密」を避け「人と人との距離をとるように」と盛んに言われています。しかし、「心と心の距離は離れずに」心のつながりを深めていくことがこんなときこそ大切です。

5月の臨時休業中には週1回「連絡日」を設定します。生徒の健康状態や学習状況の確認などを行いながら、生徒や保護者の皆さんと学校との「つながり」を深めていくことがねらいです。

実施方法、日時など詳しくは八中ホームページでご確認ください。

先が見えず、まだまだ不安な毎日が続きますが、こんなときこそ「つながり」や「思いやり」を大切にしていきたいと思っています。何か心配なこと、要望などがありましたら学校までご連絡ください。

「つらいとき だから示そう 思いやり」という標語が新聞に掲載されていました。今後とも、ご協力よろしくお願いいたします。